

小児看護学臨地実習における  
ルーブリック評価表導入による成果と課題  
－実習期間・実習形態やルーブリック評価表の  
使用経験による比較検討－

**Achievements and challenges of introducing a rubric evaluation chart  
in pediatric nursing field practice  
－Comparative study of the duration and type of practical training  
and the experience of using rubric evaluation charts**

伊 織 光 恵<sup>1)</sup>

Mitsue IORI

田 中 さおり<sup>1)</sup>

Saori TANAKA

日 沼 千 尋<sup>1)</sup>

Chihiro HINUMA

**要旨**

本研究の目的は、小児看護学臨地実習でのルーブリック評価表導入による成果と課題を明らかにすることである。実習期間・実習形態やルーブリック評価表の使用経験による違いを比較検討した。A大学4年生82人を対象に、ルーブリック評価表について自記式質問紙調査を行った。実習期間は2週間と1週間の違いは全項目で差はなく、実習形態の違いは、「学習意欲が高まった」のみに差があった。ルーブリック評価表の使用経験のある学生は、「経過に合わせた判断がしやすい」、「学習成果が高まった」、「学習意欲が高まった」、「妥当な評価ができた」、「評価しやすかった」、「教員との評価の違いに不安をもたずに評価ができた」、「評価基準の内容がわかりやすかった」、「評価基準と実習の内容が合っていた」、「評価するのに時間がかからなかった」の項目で有意に高かった。ルーブリック評価表の改善点は、ルーブリック評価表の表現や内容の改善と、ルーブリック評価表の使用法の改善が含まれていた。これらは連動しており双方の改善により、有用性の高いルーブリック評価表の活用になることが示唆された。

The purpose of this study is to clarify the outcomes and challenges of introducing rubric evaluation tables into paediatric nursing practical training. A self-administered questionnaire survey on the rubric evaluation chart was administered to 82 fourth-year students at college A. The survey was designed to compare the differences in the duration and type of practical training and the experience of using the rubric evaluation chart. There were no differences in the duration of practical training between two weeks and one week for all items, and differences

1) 天使大学 看護栄養学部 看護学科

(2022年10月31日受稿、2023年3月3日審査終了受理)

in the form of practical training were found only in the item 'I was more motivated to learn'. Students who had experience of using the rubric evaluation table found it 'easy to make decisions in line with the progress', 'learning outcomes were enhanced', 'motivation to learn was increased', 'reasonable evaluation was made', 'it was easy to evaluate', 'evaluation was made without anxiety about differences in evaluation with the teacher', 'the content of the evaluation criteria was easy to understand', 'the content of the evaluation criteria was easy to understand', 'the 'The evaluation criteria matched the content of the practical training' and 'It didn't take too long to evaluate' were significantly higher. Improvements to the rubric evaluation form included improvements to the wording and content of the rubric evaluation form and improvements to the way the rubric evaluation form was used. It was suggested that these were linked and that improvements in both areas would result in the use of a highly useful rubric evaluation chart.

キーワード：ルーブリック (rubrics)

看護学生 (nursing students)

臨地実習 (practical nursing practice)

成果 (achievement)

自記式質問紙 (self-administered questionnaire)

## I. はじめに

新型コロナウイルス感染症の拡大をうけ、医療系大学の臨地実習は多くの影響を受けることとなった。A大学の小児看護学臨地実習においては、医療機関での臨床実習の中止、学内実習への切り替え、実習時間の短縮があった。これらより、実習内容を見直す必要があり、臨地実習の学びを保障するために検討を重ねた。「看護基礎教育検討会報告書」(厚生労働省, 2019)の指導ガイドラインでは、「臨床診断を行うための基礎的能力を養う」ことが重要であるとされている<sup>1)</sup>。クリスティーン・タナーは、「臨床判断とは、患者のニーズ、関心ごと、健康問題を捉えて解釈し、患者を統合的に把握する中で、看護行為を行うか行わないか、どのような行為を行うかを判断・実施し、さらに対象者からの反応を捉えて適切と思われる新たな行為を即興的に行うことを表す<sup>2)</sup>」としている。小児看護学臨地実習に臨床判断を取り入れることで、新型コロナウイルス感染症拡大による影響下においても学生の学びを深められると考えた。

さらに、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換にむけて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(中央教育審議会答申)には、学士課程教育の質的転換のための具体的方策として、学修成果の客観的な評価手段を検討することが明示されている<sup>3)</sup>。この評価手段としてルーブリック評価表があり、評価規準(学習活動に応じたより具体的な到達目標)と評価規準に即した評価基準(どの程度できればどの評価を与えるかの特徴の記述)のマトリクスで示される配点表を用いた成績評価である。標準テストでは測定できない総合的な能力(「思考・判断」や「関心・意欲・態度」、「技能・表現」)の評価にむく<sup>4)</sup>と言われている。臨床判断を取り入れ実習目標の修正を行い、ルーブリック評価表を導入することで実習目標達成へのプロセスが明確になると

考えた。先行研究では看護臨地実習でのルーブリック評価表の活用により、学生は自己評価がしやすい<sup>5)</sup>、自己評価と教員評価のズレが少ない<sup>6)</sup>と評価している。さらに、実習中の成果として、学習の到達度が理解できた<sup>6)7)</sup>、記録が充実した<sup>6)</sup>、学修が進めやすい<sup>5)</sup>など評価以外の学生の成果が報告されている。一方、実習評価の時間がかかる<sup>7)</sup>、評価基準が理解しづらい<sup>8)</sup>などの改善点が出ている。しかし、これらは看護臨地実習を病院または施設で実施した報告であり、実習期間や実習形態の違いがもたらす影響については言及されていない。

ルーブリック評価表は、学生の学びの成果を高め、学習意欲を喚起できるなどの効果もあるとされており<sup>9)</sup>、実習目的である、看護を実践できる基礎的能力修得に有効であると考えられる。今回は多様な実習期間や実習形態が混在する中でルーブリック評価表の導入が開始されたため、実習期間や実習形態の違いによる影響について明らかにし、今後の学習方法の示唆を得たいと考えた。

## II. 研究目的

小児看護学臨地実習へのルーブリック評価表導入による実習時間・実習形態やルーブリック評価表の使用経験の違いによる成果と課題を明らかにすることである。

## III. 用語の操作的定義

本研究において「成果」とは、森田<sup>9)</sup>が示した「評価者(教員・教員同士、学生)の誰が評価しても、短時間で同じ評価基準で客観的に評価でき、教員がタイミング良く意味のあるフィードバックを返すことで、学生の学びの効果を高め学習意欲を喚起できる」という、ルーブリック評価表の利点とされる内容を認識できることと定義した。

## IV. 小児看護学実習の概要

### 1. 実習の位置づけと目的

#### 1) 実習の位置づけ

A大学看護学科では、2012年度改正カリキュラムより、母性看護学と小児看護学の実習を統合し、母子看護学臨地実習として3年後期に1単位45時間、4年前期に3単位135時間、合わせて4単位の实習を実施している。4年次は母性看護学臨地実習と小児看護学臨地実習を学生の選択によりそれぞれ2週間または1週間行う方法で展開している。

#### 2) 実習の目的、目標

実習目的は、看護を实践できる基礎的能力の修得である。目標は子どもとその家族に必要な看護計画の立案と必要な看護をスタッフと連携しながら安全、安楽に実施することである。2021年度より臨床判断を取り入れ、子どもの成長発達をふまえ、健康障害・入院や検査・治療が子どもの発達や日常生活、そして退院後の生活や家族に及ぼす影響を説明できる。さらに、子どもの健康状態が改善し、安全・安楽でその子なりの成長発達が促進される看護を計画、実践、評価・修正できることを目標とした。

## V. 小児看護学臨地実習におけるルーブリック評価表の概要と使用方法

### 1. ルーブリック評価表作成の過程（表1）

ルーブリック評価表の作成には、関連文献<sup>7)10)11)</sup>を参考に、ルーブリックの構成要素となる「評価項目」は、小児看護学臨地実習の実習目標に対比させる形で6項目を設定した。「評価尺度」は、評価目標をいくつかのレベル（段階）に分けたもので、実習目標の達成度を判断するものであり、学生の知識、理解、行動、態度などの具体的内容を提示し4段階とした。各レベルにおける、内容の表記は、「～を説明できる」、「～を計画できる」、

「～を实践できる」などの行動表現とした。

### 2. ルーブリック評価表の使用方法

ルーブリック評価表は、実習オリエンテーションで事前に実習目標と一緒に提示し、実習中のフィードバックや目標共有、さらに総合評価として使用することを説明した。

実習中の評価で使用するルーブリック評価表は、総合評価で使用するものと同じ項目内容とした。各レベルで達成した内容を記載する欄を加え、A4版に両面印刷し使用した。病院で実習を行った学生は受け持ち患児1人に対して1枚のルーブリック評価表を使用した。毎日もしくは数日に1度の割合でA4版の評価表に学生が記載した内容を基に、実習指導教員または教員と共に実習目標の到達状況を確認した。実習終了日には、総合評価として学生と実習指導教員・教員が個人面談を行った。A3版の学生最終評価用のルーブリック評価表を使用しながら学生の自己評価と教員評価を相互に意見交換を行った。学内実習（オンライン）の学生は紙上事例による実習であり、実習中の実習目標の到達状況の確認、実習終了日の総合評価を共にオンラインで行った。

## VI. 研究方法

### 1. 対象者

A大学看護学科4年生で、2021年度前期に小児看護学臨地実習に参加した96人のうち、実習終了後に同意の得られた学生を対象とした。

### 2. 調査期間

2021年11月～12月

### 3. 調査内容と方法

#### 1) 自記式質問調査

##### (1) 基本的属性

学年、実習期間（2週間または1週間）、実習

表1 ルーブリック評価表の構成と内容

評価項目	レベル				学生最終評価 (達成状況を記載)
	I	II	III	IV	
1. 子どもの理解 (20点)	子どもの健康障害を踏まえて子どもを理解するために①病気に対する思い・理解度、②医療者への反応、③疾患名や症状、④バイタルサイン、⑤治療内容、⑥入院までの経過、⑦検査データ等について説明できる	子どもの発達段階を踏まえて子どもを理解するために①発達状況・②生活状況(食事、排泄、睡眠、遊び・学習、清潔)③大切にしていること、④ストレスへの対応、⑤家族との関係、⑥友人、教師との関係等について説明できる	I～IIを既存の知識と照らし合わせて、①子どもの発達・生活状況、②健康障害や検査・治療が入院生活に及ぼす影響、③健康障害や検査・治療が心理面や社会面に及ぼす影響について説明できる	IIIを統合させ受け持ち患児の全体像を説明できる	
	12-13点	14-15点	16-17点	18-20点	
2. 子どもと家族に必要な看護の理解 (20点)	健康障害に対する一般的な安全・安楽に考慮した看護が計画できる	Iの計画にプラスして、子どもと家族の生活リズムを考慮した看護を計画できる	IIの計画にプラスして、子どもの成長発達や家族の状況を考慮した看護が計画できる	IIIの計画にプラスして子どもと家族の退院後の生活を見通した看護や多職種と連携した看護を計画できる	
	12-13点	14-15点	16-17点	18-20点	
3. 子どもの健康状態に応じた看護の実践 (20点)	子どもと家族の反応を見ながら安全な実践ができる	Iの実践にプラスして、子どもと家族の生活リズムに合わせた実践ができる	IIの実践にプラスして、子どもの健康障害に応じた実践ができる	IIIの実践にプラスして、常に子どもの成長発達を促進するための実践ができる	
	12-13点	14-15点	16-17点	18-20点	
4. 実践した看護の評価 (15点)	実施した援助の結果とその際の子どもの反応を記録できる	Iにプラスして、その子どもの反応を実施した援助と照らし合わせて意味付けし、記録することができる	IIから、子どもにとってよりよい看護となるように援助を修正できる	実施した看護の妥当性を日々の実践や看護目標と照らし合わせて評価できる	
	9点	10-11点	12-13点	14-15点	
5. 家族の理解 (10点)	家族を理解するために①家族構成・家族関係・同胞の有無、②保健医療行動、③主たる養育者、④子どもにとってのキーパーソンについて説明できる	家族をより理解するために①子どもの健康障害・入院による受け止め、②子どもの健康障害・入院による生活への影響、③子どもの病気・入院による家族役割・関係、社会的役割への影響等について説明できる	I～IIを既存の知識と照らし合わせて、子どもの入院が家族の生活や心理面、社会的役割に及ぼす影響について説明できる	IIIの内容を統合させ、受け持ち患児の家族について説明できる	
	6点	7点	8点	9-10点	
6. 責任ある態度 (15点)	医療チームの一員として指導者や教員に実践した看護や自分の状況について報告ができる	Iにプラスして、子どもの安全・人権を守るために指導者や教員に実習での困難状況を相談できる	IIにプラスして、子どもの安全・人権を守るために指導者や教員に自分の意思(考え)を説明することができる	IIIにプラスして、小児看護における看護師の役割について説明できる	
	4点	5点	6点	7-8点	
	実習生として約束や決まり事を守ることができる	Iにプラスして、実習メンバーと協力して病院実習や学内実習に取り組むことができる(メンバーシップ)	小児看護学実習を通して、①自ら考える、②考えたことを伝える、③相手の考えを聞く、④相手とともに考える、ができる(リーダーシップ)		
5点	6点	7点			

形態（全日程病院実習、病院実習と学内実習の混合、全日程学内実習）、他領域の実習におけるルーブリック評価表の使用経験の違い、ルーブリック評価表の実習中の使用の有無である。

#### （2）ルーブリック評価表使用について

2021 年度小児看護学臨地実習におけるルーブリック評価表使用について、実習中の評価 7 項目、実習終了後の評価 7 項目について質問した。質問項目は、ルーブリック評価表を使う目的と必要性、利点<sup>9)</sup>を参考に研究者が質問項目を選出した。回答は、1. とてもそう思う、2. ややそう思う、3. どちらともいえない、4. あまりそう思わない、5. 全くそう思わない、の 5 段階評定とした。自由記載は、ルーブリック評価表の良い点とルーブリック評価表の改善点の回答を求めた。

#### 2) データ収集方法

質問紙は学生が小児看護学臨地実習終了後の登校日に、口頭と書面で研究協力を依頼し配布した。質問紙は無記名で個人が特定出来ないものであり、質問紙の回収は鍵のかかるメールボックスへの提出とした。

#### 4. 分析方法

##### 1) 自記式質問紙調査

数量的データは記述統計を算出した。各変数について、実習期間の違い、他領域の実習におけるルーブリック評価表の使用経験の違いによる 2 群間の差の検定は、Mann-Whitney の U 検定、実習形態の違いの 3 群間の差の検定は Kruskal-Wallis 検定を用いた。Kruskal-Wallis 検定では有意な差があった場合、多重比較を行い、どの水準の組み合わせ間に有意差が存在するのか Bonferroni の方法で検証した。統計的な有意水準は 5% とし、統計解析は、統計パッケージ SPSS23.0 for Microsoft Windows を使用した。また、自由記載部分は、ルーブリック評価表の良い点、ルーブリック評価表の改善点について意味内容を要約し類

似性に沿ってカテゴリー化した。自由記載の内容は【 】で示した。

#### 5. 倫理的配慮

学生に口頭および文書で、研究の目的・方法、研究協力に伴う利益と不利益、個人情報保護、研究協力の任意性と撤回の自由、成果の公表について、説明し協力を依頼した。実習が終了し成績判定後に行い、研究協力の有無は成績と無関係であることを明確に提示した。本研究は、天使大学研究倫理委員会の承認（2021-17）を得て実施した。

## VII. 結 果

調査の主旨を説明し、96 人に質問紙を配布、回収は 88 人（回収率 91.7%）だった。しかし、未回答の項目がある学生が 6 人いたため有効回答は 82 人（有効回答率 85.4%）であった。

#### 1. 対象者の基本的属性（表 2）

対象者の属性は、表 2 に示した通りである。小児看護学臨地実習期間は 2 週間が 39 人（47.6%）、1 週間が 43 人（52.4%）であった。実習形態は全日程病院実習が 35 人（42.7%）、病院実習と学内実習の混合が 13 人（15.8%）、全日程学内実習（オンライン）34 人（41.5%）であった。他領域の実習におけるルーブリック評価表の使用経験の違いは、使用経験あり 18 人（22.0%）、使用経験なし 64 人（78.0%）であった。今回の実習中のルーブリック評価表の使用の有無では、使用あり 71 人（86.6%）、使用なし 11 人（13.4%）であった。使用なしと回答した学生の実習形態は、全員が全日程学内実習（オンライン）であった。

2. 実習中にルーブリック評価表を使用しての評価

1) 実習中にルーブリック評価表を使用した成果 (表3)

学生 82 人のうち最終日の総合評価以前にルーブリック評価表を使用していないと認識していた学生が 11 人いたため、71 人から実習中の評価 7 項目について回答があった。

学生の回答で「とてもそう思う」と「ややそう思う」の合計（以下：肯定的回答）は、「実習の目標が明確になった」(91.6%)が最も高く、「実習の到達度がわかりやすかった」(87.4%)、「実習の改善点がわかりやすかった」(81.9%)であった。また、「学習意欲が高まった」(63.4%)、「学習成果が高まった」(67.7%)は低い結果であった。

表2 対象者の基本的属性

n=82

		N	%
実習期間	2週間	39	47.6
	1週間	43	52.4
実習形態	全日程病院実習	35	42.7
	病院実習と学内実習の混合	13	15.8
	全日程学内実習	34	41.5
他領域の実習におけるルーブリック評価表の使用の有無	有	18	22.0
	無	64	78.0
今回の実習中におけるルーブリック評価表の使用の有無	有	71	86.6
	無	11	13.4

表3 ルーブリック評価表の使用による実習中と最終評価の効果

	全くそう 思わない		あまりそう 思わない		どちらとも いえない		やや そう思う		とても そう思う		
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	
実習中の 評価 n=71	1. 実習の目標が明確になった	0	0.0	3	4.2	3	4.2	34	47.9	31	43.7
	2. 経過に合わせた判断がしやすい	0	0.0	3	4.2	11	15.5	29	40.9	28	39.4
	3. 改善点がわかりやすい	0	0.0	3	4.2	5	7.1	36	50.7	27	38.0
	4. 達成度がわかりやすい	0	0.0	2	2.8	7	9.9	30	42.3	32	45.0
	5. 学習意欲が高まった	2	2.8	3	4.2	21	29.6	30	42.3	15	21.1
	6. 学習成果が高まった	1	1.2	2	2.8	20	28.3	28	39.4	20	28.3
	7. 教員や実習指導教員とコミュニケーションがとりやすい	0	0.0	3	3.7	16	22.5	27	38.0	25	35.3
最終評価 n=82	8. 妥当な評価ができた	1	1.2	0	0.0	5	6.1	44	53.7	32	39.0
	9. 評価しやすかった	0	0.0	3	3.7	5	6.1	40	48.8	34	41.4
	10. 評価するのに時間がかからなかった	3	3.7	9	11.0	29	35.3	24	29.3	17	20.7
	11. 教員との評価の違いに不安をもちたずに評価ができた	0	0.0	1	1.2	18	22.0	36	43.9	27	32.9
	12. 評価基準の内容がわかりやすかった	1	1.2	8	9.8	14	17.1	33	40.2	26	31.7
	13. 評価基準の内容と実習の内容が合っていた	0	0.0	6	7.3	7	8.5	39	47.6	30	36.6
	14. 実習開始前に提示されていて良かった	0	0.0	1	1.2	4	4.9	27	32.9	50	61.0

2) 実習中のルーブリック評価表使用の実習期間、実習形態、ルーブリック評価表の使用経験の違いによる比較 (表4、表5、表6)

実習期間2週間の学生と1週間の学生の違いでは、実習中の評価7項目全てにおいて有意な差はなかった。実習形態の違いでは、「学習意欲が高まった」で、有意な差 ( $p < .05$ ) があった。ここではさらに Bonferroni の方法による多重比較を行い、全日程病院の学生と病院学内混合の学生間 ( $P < .05$ ) で有意な差があった。他領域の実習におけるルーブリック評価表の使用経験の違いでは、

「経過に合わせた判断がしやすい」、「学習成果が高まった」が ( $p < .01$ )、「学習意欲が高まった」が ( $p < .05$ ) で有意な差があった。

3. 最終日にルーブリック評価表を使用しての評価

1) 最終日にルーブリック評価表を使用した成果 (表3)

学生 82 人から実習最終日の評価7項目について回答があった。学生の肯定的回答は「実習開始前に提示されていて良かった」(93.9%)が最も高

表4 ルーブリック評価表の使用による実習中と最終評価の効果における学生の実習期間の比較

	項目	2週間 (36人)		1週間 (35人)		Z	P値
		mean	SD	mean	SD		
実習中の 評価 n = 71	1. 実習の目標が明確になった	4.31	.749	4.31	.758	-.090	.929
	2. 経過に合わせた判断がしやすい	4.25	.841	4.06	.838	-1.056	.291
	3. 改善点がわかりやすい	4.28	.849	4.17	.664	-1.058	.290
	4. 達成度がわかりやすい	4.31	.786	4.29	.750	-.202	.840
	5. 学習意欲が高まった	3.89	.950	3.60	.914	-1.616	.106
	6. 学習成果が高まった	3.94	.984	3.86	.810	-.663	.507
	7. 教員や実習指導教員とコミュニケーションがとりやすい	4.19	.749	3.89	.963	-1.286	.198
最終評価 n = 82		2週間 (39人)		1週間 (43人)		Z	P値
	項目	mean	SD	mean	mean		
	8. 妥当な評価ができた	4.36	.537	4.23	4.23	-.403	.687
	9. 評価しやすかった	4.41	.637	4.16	4.16	-1.365	.172
	10. 評価するのに時間がかからなかった	3.62	1.161	3.44	3.44	-.876	.381
	11. 教員との評価の違いに不安をもちたずに評価ができた	4.08	.807	4.09	4.09	-.010	.992
	12. 評価基準の内容がわかりやすかった	3.90	1.021	3.93	3.93	-.113	.910
13. 評価基準の内容と実習の内容が合っていた	4.08	.839	4.19	4.19	-.759	.448	
14. 実習開始前に提示されていて良かった	4.49	.644	4.58	4.58	-.832	.405	

く、「妥当な評価ができた」(92.7%)、「評価しやすかった」(90.2%)であった。また、学生の肯定的回答が最も低い項目は、「評価するのに時間がかからなかった」(50.0%)であった。

2) 最終日のルーブリック評価表使用の実習期間、実習形態、ルーブリック評価表の使用経験の違いによる比較 (表4、表5、表6)

実習期間と実習形態の違いでは、最終日の評価

7項目全てにおいて有意な差はなかった。他領域の実習におけるルーブリック評価表の使用経験の違いでは、「妥当な評価ができた」、「評価しやすかった」、「教員との評価の違いに不安をもたずに評価ができた」、「評価基準の内容がわかりやすかった」、「評価基準と実習の内容が合っていた」が(p<.01)、「評価するのに時間がかからなかった」が(p<.001)で有意な差があった。

表5 ルーブリック評価表の使用による実習中と最終評価の効果における学生の実習形態の比較

項目	全日程病院(33人)		病院学内混合(11人)		全日程学内(27人)		P値
	mean	SD	mean	SD	mean	SD	
1. 実習の目標が明確になった	4.12	.857	4.64	.674	4.41	.572	.097
2. 経過に合わせた判断がしやすい	4.03	.951	4.36	.809	4.22	.698	.564
3. 改善点がわかりやすい	4.09	.914	4.55	.688	4.26	.526	.236
4. 達成度がわかりやすい	4.15	.906	4.55	.522	4.37	.629	.455
5. 学習意欲が高まった	3.48	1.121	4.36	.505	3.81	.681	.024
6. 学習成果が高まった	3.82	1.044	4.27	.786	3.85	.718	.324
7. 教員や実習指導教員とコミュニケーションがとりやすい	3.97	.883	4.18	.603	4.07	.958	.766
全日程病院(35人) 病院学内混合(13人) 全日程学内(35人)							
項目	mean	SD	mean	SD	mean	SD	P値
8. 妥当な評価ができた	4.20	.759	4.23	.599	4.41	.657	.381
9. 評価しやすかった	4.17	.785	4.46	.519	4.32	.768	.495
10. 評価するのに時間がかからなかった	3.31	1.255	4.00	.816	3.56	.860	.168
11. 教員との評価の違いに不安をもたずに評価ができた	4.17	.857	4.15	.689	3.97	.717	.430
12. 評価基準の内容がわかりやすかった	3.69	1.183	4.31	.630	4.00	.853	.263
13. 評価基準の内容と実習の内容が合っていた	3.91	.919	4.23	.832	4.32	.768	.125
14. 実習開始前に提示されていて良かった	4.43	.815	4.62	.506	4.62	.493	.813

Kruskal Wallis 検定 \*p<.05

Bonferroni の方法による多重比較 \*\*全日程病院と病院学内混合で有意差あり P値 .019

表6 ルーブリック評価表の使用による実習中と最終評価の効果における学生の実習期間の比較

項目	有り (18人)		無し (53人)		Z	P 値
	mean	SD	mean	SD		
1. 実習の目標が明確になった	4.61	.502	4.21	.793	-1.950	.051
2. 経過に合わせた判断がしやすい	4.61	.502	4.00	.877	-2.662	.008
3. 改善点がわかりやすい	4.33	.840	4.19	.735	-.989	.323
4. 達成度がわかりやすい	4.61	.502	4.19	.810	-1.942	.052
5. 学習意欲が高まった	4.17	.924	3.60	.906	-2.313	.021
6. 学習成果が高まった	4.39	.916	3.74	.836	-2.907	.004
7. 教員や実習指導教員とコミュニケーションがとりやすい	4.33	.907	3.94	.842	-1.849	.064
						**
項目	有り (18人)		無し (64人)		Z	P 値
	mean	SD	mean	SD		
8. 妥当な評価ができた	4.67	.594	4.19	.687	-2.976	.003
9. 評価しやすかった	4.67	.485	4.17	.767	-2.610	.009
10. 評価するのに時間がかからなかった	4.39	.916	3.28	.967	-4.005	.000
11. 教員との評価の違いに不安をもちずに評価ができた	4.50	.707	3.97	.755	-2.650	.008
12. 評価基準の内容がわかりやすかった	4.50	.786	3.75	.992	-3.034	.002
13. 評価基準の内容と実習の内容が合っていた	4.61	.778	4.00	.836	-3.246	.001
14. 実習開始前に提示されていて良かった	4.72	.461	4.48	.690	-1.246	.213

Mann-Whitney の U 検定 \* p &lt; .05 \*\* p &lt; .01 \*\*\* p &lt; .001

#### 4. 自由記載のルーブリック評価表の良い点と改善点 (表7、表8)

自由記載の良い点は53人、改善点は42人の記載があった。良い点と改善点の自由記載を意味内容の類似したものに分類しカテゴリー化した。ルーブリック評価表の良い点は、「ルーブリック評価表の特徴」、「ルーブリック評価表の評価方法」、「学生の変化」が確認できた。「ルーブリック評価表の特徴」では【評価基準が具体的に目標、達成度、課題が理解しやすい】(37人)、【評価基準が

明確で、評価をする人によって評価が異なる】(5人)、「ルーブリック評価表の評価方法」では【教員とのカンファレンスで自分の課題、評価が理解しやすい】(6人)、【達成状況を書いていくことで学びの振り返りになった】(2人)、「学生の変化」では【実習評価や振り返りがやりやすかった】(9人)などであった。

ルーブリック評価表の改善点は、「ルーブリック評価表の特徴」、「ルーブリック評価表の評価方法」、「学生の不満」が確認できた。「ルーブリッ

表7 ルーブリック評価表の良い点（複数回答）

n = 53

カテゴリー	自由記載（人数）
ルーブリック評価表の特徴	評価基準が具体的で目標、達成度、課題が理解しやすい (37) 評価基準が明確で、評価をする人によって評価が異なる (5) 評価基準の配点が明確で理解しやすい (1) 自分の評価がわかり安心できる (1)
ルーブリック評価表の評価方法	教員とのカンファレンスで自分の課題、評価が理解しやすい (6) 実習中に評価することで達成度、課題が理解しやすい (2) 達成状況を書いていくことで学びの振り返りになった (2) ルーブリック評価表を事前に提示されて目標が理解しやすい (1)
学生の変化	実習評価や振り返りがやりやすかった (9) 次のレベルにむけて、頑張ろうという意欲につながった (1) 目標をもって行動できた (1) 学習に取り組みやすかった (1) 課題が明確になり情報収集やアセスメントがすすんだ (1) 自分で妥当な評価ができた (1) 実習中に課題が明確になり意欲的に取り組めて学びが深まる (1)

表8 ルーブリック評価表の改善点（複数回答）

n = 42

カテゴリー	自由記載（人数）
ルーブリック評価表の特徴	評価基準の文章表現に理解しづらい部分があった (9) レベル内に達成内容が複数あり迷った (5) レベルの違いが不明確な部分があった (2)
ルーブリック評価表の評価方法	書き方が（記載欄、点数の付け方など）わかりづらい (5) 評価の記入欄が小さい (5) 内容を体験できない、機会がないため書きにくい (3) 受け持ち患者が増えると大変 (2) 学内の実習のため評価しづらい (2) 初めてだったので記載例が欲しい (2)
学生の不満	学生と教員の評価基準が違う (1) 評価内容がそれていると言われ考えるのに苦労した (1) 目標達成にとられる (1) 実習期間が短くて目標を達成できない (1)

ク評価表の特徴」では、【評価基準の文章表現に理解しづらい部分があった】(9人)、【レベル内に達成内容が複数あり迷った】(5人)、「ルーブリック評価表の評価方法」では、【書き方が（記

載欄、点数の付け方など）わかりづらい】(5人)、【内容を体験できない、機会がないため書きにくい】(3人)、「学生の不満」では、【学生と教員の評価基準が違う】(1人)、【評価内容がそれてい

ると言われ考えるのに苦労した】(1人)などであった。

## Ⅷ. 考 察

### 1. 小児看護学臨地実習でルーブリック評価表を導入しての成果

学生の実習期間や実習形態、ルーブリック評価表の使用経験の違いなど多様であった。しかし、実習中のルーブリック評価表の使用で9割以上の学生は実習目標が明確になっており、ルーブリック評価表の開始前の提示が良かったと認識していた。自由記載では【評価基準が具体的で目標、達成度、課題が理解しやすい】と評価していた。実習目標の明確化は先行研究<sup>7) 12)</sup>でも、9割以上の学生が認識できた結果が報告されている。ルーブリック評価表は実習前オリエンテーションで実習目標と一緒に活用方法を説明した。さらに、実習中にルーブリック評価表を学生が記載し、教員と共に確認しながら実習を進めた。ルーブリック評価表の事前提示により学生は事前学習に活用し自己学習に役立てており<sup>13)</sup>、ルーブリック評価表は到達目標や実施すべき内容が可視化でき理解しやすい評価である<sup>7)</sup>。また、実習中のプロセスの中で繰り返し使用することで実習効果を高め、到達レベルの深度を深めることにつながる<sup>14)</sup>。学生は、【教員とのディスカッションで目標の達成・課題の理解が深まる】、【実習の妥当な評価ができた】と、感じていた。さらに、【達成状況の評価を書いていくことで学びの振り返りになった】、【教員との実習評価や振り返りは、やりやすかった】など、実習中に学生と教員が共に評価や振り返りを行うことで形成評価の役割機能も果たしていた。ルーブリック評価表の活用は、学生の実習目標の可視化、目標達成度の確認、課題の明確化につながっていたと考えられる。

実習最終日の評価で学生の9割以上がルーブリック評価表は評価しやすく、妥当な評価ができたと回答していた。自由記載では、【教員との評価

の違いに不安をもちずに評価ができた】、【評価基準が明確で教員による評価の違いが起こりにくい】と、意見があった。二村ら<sup>15)</sup>は、教員は学生がフィードバックから適切な自己評価ができるように関わる必要性があると報告している。教員はルーブリック評価表に明記されている基準を基に迅速的フィードバックを行うことで、学生は自らの評価と教員の示す評価の相違について理解できる機会となる。タイミング良く意味のあるフィードバックが学生に返ることは、学びの効果を高め学生の学習意欲を喚起する<sup>16)</sup>。学生は教員との評価を重ねながら自分自身を客観的に評価し、適切な達成度や課題を認識できていたと考えられる。

一方、学習意欲や学習成果の高まりは6割の学生しか実感できていない結果であった。しかし、自由記載には【評価基準が明確で教員による評価の違いが起こりにくい】、【学習に取り組みやすかった】、【次のレベルにむけて、頑張ろうという意欲につながった】など、学生が認識したルーブリック評価表の使用による成果が伺われた。少数ではあるが、学習意欲につながった学生がいたことが明らかとなった。学生は教員からのタイムリーなフィードバックで自己内省し、批判的に自己評価ができ、学習課題に真摯に向き合い、公平・公正な評価を確信でき学習意欲につながるとされている<sup>17)</sup>。学生がルーブリック評価表を活用しながら学習意欲を認識できるためには、教員からの迅速的フィードバックが必要である。実習中に教員が達成状況の確認と不足部分を明確化する迅速的フィードバックを行うことは、形成評価となりうる。さらに、この評価が公平・公正であることを学生が納得できることで学習意欲や行動の変容へと繋がる効果が期待できると考える。

### 2. 小児看護学臨地実習でルーブリック評価表を使用しての実習時間・実習形態やルーブリック評価表の使用経験の違いによる成果

実習中にルーブリック評価表を使用しなかった

と11人の学生が回答した。この11人の実習形態は全日程学内実習（オンライン）であった。全日程学内実習では実習目標と学習すべき要素を意図した紙上事例を提示していた。看護援助はオンラインで実施できる内容が限定されており、ルーブリック評価表の内容として実施困難なレベルの評価基準が存在していた。また、実習中の迅速的フィードバックはオンラインのため、口頭での指導が中心であった。紙上事例で学生が従来の臨地実習と同様の学びを得ることは難しく、教員は子どもの特徴やその言動の意味を積極的に伝えるフィードバックが効果的であることが報告されている<sup>18)</sup>。オンラインによる学内実習でルーブリック評価表を活用するためには、病院実習と同様の関わりでは十分に活用できない状況であった。紙上事例でのオンラインによる実習では、ルーブリック評価表の評価基準の解釈、レベルの違いを学生が理解できる準備が必要であるといえる。教員は紙上事例に合わせたルーブリック評価表の解釈、レベル達成度を確認しながら迅速的フィードバックを行う必要がある。このような教員の迅速的フィードバックを学生が理解できることで学生のルーブリック評価表の活用につながると考える。

最終評価で、実習を評価するのに時間がかからなかった学生は5割程度であり、先行研究<sup>7)</sup>でも5割と同様の結果であった。ルーブリック評価表は学生自らが課題に気づく、フィードバックを含んだ評価方法であり、学生が内省を深めリフレクションが行われているための結果であると報告されている<sup>7)</sup>。しかし、他領域での実習でルーブリック評価表の使用経験のある学生は、使用経験のない学生より時間をかけずに評価ができていた。学生自らが課題に気づき内省を深めリフレクションすることは、ルーブリック評価表の特徴であり、初めて使用する学生には過去に経験のない評価方法と思われる。【書き方がわかりづらい】、【初めてだったので記載例が欲しい】と、あるように評価内容の表現方法に迷う学生がいたことが伺われ

る。表現方法の迷いが、評価に時間がかかる原因の可能性もある。表現方法は、教員からの活用方法の説明と迅速的フィードバックで確認ができ、ルーブリック評価表を活用し繰り返し評価・記載するなど習得できる状況にある。使用経験の違いによる評価にかかる時間の差は、今後活用を繰り返すことで自分なりの方法を習得し評価時間の短縮につながると考える。

他領域での実習でルーブリック評価表の使用経験の違いによる有意な差は、「経過に合わせた判断がしやすい」、「学習成果が高まった」、「学習意欲が高まった」、「妥当な評価ができた」、「評価しやすかった」、「教員との評価の違いに不安をもちずに評価ができた」、「評価基準の内容がわかりやすかった」、「評価基準と実習の内容が合っていた」、「評価するのに時間がかからなかった」の14項目中9項目であった。ルーブリック評価表は、学生にとって経験のない評価方法であるため、方法に慣れるためのサポートが必要であり時間を要する。しかし、使用経験があることでルーブリック評価表の活用により利点を認識できていた。ルーブリック評価表を高頻度で使用する学生は、標準使用の学生より実習目標の達成を目指すための行動を行うことが報告されている<sup>12)</sup>。ルーブリック評価表は繰り返し活用することで複数の利点を実感でき、さらに次への活用につながることから学生の主体的活用が期待できると考える。

一方、実習期間や実習形態の違いによる有意な差は14項目中1項目であり影響を受けにくいことが明らかとなった。ルーブリック評価表の特徴は、プロセスを評価する学習活動の評価に適しており、学びの効果を高め学習意欲を喚起する<sup>9)</sup>。これらは従来使われてきた「自己評価表」を実習終了時に記載する実習評価との違いである。ルーブリック評価表の利点を活かすには、教員と学生がルーブリック評価表の意図や活用方法を理解することが必要であり、相互的な関わりが不可欠である<sup>19)</sup>。ルーブリック評価表の特徴や利点から学

生と教員の相互関係が継続できることで、実習期間や実習形態の違いがあっても活用できる評価表であることが示唆された。

### 3. 小児看護学臨地実習でルーブリック評価表を導入しての課題

最終の総合評価でルーブリック評価表は、評価がしやすく、妥当な評価ができたとして9割の学生は認識できていた。しかし、自由記載からは【ルーブリック評価表の評価基準の文章表現に理解しづらい部分がある】、【レベルの違いが不明確である】と、意見があった。ルーブリック評価表の評価基準に示される内容を具体的に理解できていない学生がいることが伺えた。学生が評価基準の内容やレベルの違いを理解しづらいと認識することは、客観的に評価が行われていないことが考えられる。また、【学生と教員の評価基準が違う】、【評価内容がそれていると言われ考えるのに苦労した】との意見があった。ルーブリック評価表の言葉の抽象度が高いことで、拡大解釈が可能となり表面的な事象のみを捉えて、学生本人なりの解釈では到達したと理解されることもある<sup>6)</sup>。これは、学生が教員の評価に不安をもつ可能性が考えられる。ルーブリック評価表は実習中の達成状況を評価し活用するため、学生は評価基準の意味を正しく理解し教員と共有する必要がある。そのためには、ルーブリック評価表の文言表現の修正を行う。さらに、学生の評価基準の理解を確認し、繰り返し迅速的フィードバックを行う。今後活用する上で改善の余地が残されていることが示唆された。

自由記載より、ルーブリック評価表の評価基準の内容を体験できていない状況が明らかとなった。受け持ち患者に該当しない内容、また経験の機会がない内容であることが理由であった。複数の病院・施設が臨床実習の場所となっており、それぞれの特徴による体験内容の違いは考えられる。さらに今回は全日程が学内実習の場合、オンラインのため直接患児や家族と関われない状況であった。

評価を行いつらい、または評価できない内容は、評価に迷い時間がかかる可能性がある。学生の理解度や実習の特性に即してルーブリック評価表の各項目の妥当性や整合性を再検討し、より適切な表現を模索する必要性を示している<sup>16)</sup>。教員は実習中にルーブリック評価表を活用しながら、評価基準を対象に合わせて具体的に説明する、現在できる取り組みを学生と考案提示するなど、学生が到達度を理解できる対応が求められると考える。

ルーブリック評価表の改善点は、ルーブリック評価表の表現や内容の改善と、ルーブリック評価表の使用法の改善が含まれていた。これらは連動しており双方の改善により、より有用性の高いルーブリック評価表の活用になることが示唆された。

### 3. 本研究の限界と今後の課題

本研究はA大学のみでの調査であり対象者数は少ない。ルーブリック評価表の成果についても限定的である。今後は対象者数を増やし、他領域での実習状況や学生と教員の最終評価などについて調査を行い検討する必要がある。

## IX. 結 論

ルーブリック評価表導入による成果と課題を実習期間・実習形態やルーブリック評価表の使用経験による違いで比較検討した。実習期間の違いは全項目で差はなく、実習形態の違いは、「学習意欲が高まった」のみに差があった。ルーブリック評価表の使用経験のある学生は、「経過に合わせた判断がしやすい」、「学習成果が高まった」、「学習意欲が高まった」、「妥当な評価ができた」、「評価しやすかった」、「教員との評価の違いに不安をもちずに評価ができた」、「評価基準の内容がわかりやすかった」、「評価基準と実習の内容が合っていた」、「評価するのに時間がかからなかった」の項目で有意に高かった。ルーブリック評価表の改

善点は、ルーブリック評価表の表現や内容の改善と、ルーブリック評価表の使用方法の改善が含まれていた。これらは連動しており双方の改善により、有用性の高いルーブリック評価表の活用になることが示唆された。

## 謝 辞

本研究にご協力いただきました看護学生の皆様に感謝申し上げます

利益相反：本研究における利益相反は存在しない

## 参考文献

- 1) 厚生労働省：「看護基礎教育検討会報告書 2019」 <https://www.mhlw.go.jp/content/10805000/000557411.pdf> (2022.10.10 閲覧)
- 2) Tanner, C.A : Thinking like a nurse ; a research-based model of clinical judgment nursing, Journal of Nursing Education, 53(3), 453-458, 2014.
- 3) 文部科学省：新たな未来を築くための大学教育の質的転換にむけて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(中央教育審議会答申) 2012. [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm) (2022.10.10 閲覧)
- 4) 沖裕貴：大学におけるルーブリック評価導入の実際ー公平で客観的かつ厳格な成績評価を目指してー, 立命館高等教育研究, 14, 71-90, 2014.
- 5) 為永義憲他：在宅看護実習におけるルーブリック評価表を導入した効果の検証, 日本在宅看護学会誌, 9(2), 67-76, 2021.
- 6) 山田香, 遠藤和子：成人看護学実習(慢性期)におけるルーブリック評価の作成と試用, 山形保健医療研究, 20, 41-52, 2017.
- 7) 高桑優子他：基礎看護実習Ⅱにおけるルーブリック評価の試み, 順天堂大学保健看護学研究, 8, 96-105, 2020.
- 8) 森田敏子：実践ルーブリック診断 No.1 小児看護学実習のパフォーマンス課題のルーブリック評価, 看護展望, 1, 80-85, 2018.
- 9) 森田敏子：基礎から学ぶルーブリック評価 vol.2 ルーブリック評価を使う目的と必要性、利点ーこれまでの評価との違いからー, 看護展望, 2, 73-79, 2017.
- 10) 森田敏子：基礎から学ぶルーブリック評価 vol.1 看護教育とルーブリック評価, 看護展望, 1, 74-79, 2017.
- 11) 森田敏子：基礎から学ぶルーブリック評価 vol.6 ルーブリックの作成手順ー作成の4つのstepと4つの構成要素, 看護展望, 6, 67-73, 2017.
- 12) 作山美智子他：在宅看護実習におけるルーブリック評価表を導入した教育効果の検討, 東北文化学園大学看護学科紀要, 11(1), 29-42, 2022.
- 13) 貝谷敏子他：看護演習科目へのルーブリック導入の効果・ルーブリック評価表の信頼性と妥当性の検討, 札幌市立大学研究論文集, 11(1), 3-11, 2017.
- 14) 古城幸子他：老年看護学実習の教育評価にルーブリック評価表を導入して, 新見公立大学紀要, 34, 5-20, 2013.
- 15) 二村文子他：看護基礎教育における産褥期の母子への看護実践能力の習得を目指した教育実践, 創価大学看護学部紀要, 2, 33-43, 2016.
- 16) 森田敏子：基礎から学ぶルーブリック評価 vol.11 ルーブリックを活用した迅速なフィードバックと形成的評価, 看護展望, 11, 80-85, 2017.
- 17) 森田敏子：基礎から学ぶルーブリック評価

vol.3 学習課題に対する教員と学生の悩みに  
寄り添うルーブリック評価, 看護展望, 3,  
66-71, 2017.

- 18) 田中さおり他：学内実習プログラムで実施した小児看護学実習における学生の学び, 天使大学紀要, 21(2), 15-31, 2020.
- 19) 小宮山陽子他：看護基礎教育におけるルーブリックの推移と課題に関する文献調査, 東京女子医科大学看護学雑誌, 14(1), 15-22, 2019.